障がい学生支援室　理解深める講座開講

本学では、障がいの有無にかかわらず学生が主体的に学修できる環境をつくり、卒業後、自立した社会人として諸課題に対応できる人材育成を目指している。その一環として、障がい学生支援室では、さまざまな講座を開講し、障がいや支援について理解を深めている。6月には「視覚障がい理解・体験講座」（全3回）と、「実践！車いす体験講座」が開催された。

視覚障がい理解・体験講座

アイメイトの補助を受けての歩行体験

生田キャンパスでの視覚障がい理解・体験講座の第2回では、盲導犬（アイメイト）について知る体験講座が実施された。

公益財団法人アイメイト協会の牧島希さんが講師を担当。アイメイトの補助による歩行体験では、参加者はアイマスクをつけて、アイメイトのサポートを受けながら校舎内を歩いた。木嶋咲月さん（経済2）は「アイメイトがこちらの動きに合わせてくれていることが体感できた。視覚障がい者の移動をサポートする際に配慮すべき点も知ることができ、自分もエスコートできるようになりたいと思った」と感想を述べた。

講座の第1回は、目の仕組みについて学び、第3回は、アイマスクをつけての生活体験を通じて、視覚障がい者の支援について理解を深めた。

実践！車いす体験講座

車いす利用者の目線で食堂の使い勝手を確認

神田キャンパスでは17日、車いす体験講座が開かれ、東京都千代田区で障がい者や高齢者のサポートを行っているNPO法人ホープ代表の永田潔さんが講師を務めた。

参加者は2人1組で、車いすの利用者役と介助者役を交互に務めながら10号館やその周辺をまわった。学生食堂の券売機や自動販売機では「上の方まで手が届かず、自力でボタンを押すのは難しい」といった感想があがった。

永田さん（左）とともにキャンパス周辺をまわった

参加した中山歩実花さん（国コミュ1）は、「車いす乗車時の目線は低く、普段とは見え方や感じ方が大きく異なることに驚いた。その違いを埋めるためにも、利用者と介助者双方のコミュニケーションが大事だと感じた」と感想を述べた。

―第11回BOSAIフェア―

SKVの学生がAEDの使い方をレクチャー

防災意識を高め、自助・共助について学ぶ第11回BOSAIフェアが6月30日、神田キャンパスで開催された。学生、教職員約100人が参加した。

神田警察署、神田消防署、地元消防団、災害救援ボランティア推進委員会の協力で、消火体験や煙体験などが行われた。学生団体のSKV（専修神田ボランティア）は、AEDの取り扱い体験を指導。防災グッズの展示を行った。

SKV代表の山﨑恭稜さん（法3）は「AEDは普及したが、使い方を知らないという人も多い。体験することで、万が一何かが発生した時に、戸惑わず行動できるようになってもらえれば」と語った。

デートDVの予防啓発ワークショップを開催

交際相手からの暴力である「デートDV」の予防と啓発を目的にしたワークショップが6月7日、生田キャンパスで開かれた。

川崎市と本学キャンパス・ハラスメント対策室相談を受けた際に何ができるのかを話し合う学生たち

（斎藤達哉室長）の共催で、経済学部・杉橋やよい教授の「経済とジェンダー1」の授業内で行われた。認定NPO法人エンパワメントかながわ（横浜市）理事長の阿部真紀さんが講師を務め、学生約250人が座学とグループワークを通じて、デートDVについて理解を深めた。

身体的なものだけでなく、行動の制限や精神的・経済的・性的な暴力もデートDVに当たる。阿部さんは、「被害者は『自分が悪いから暴力を受けても仕方がない』と思い込んでしまう。周囲の人が『あなたは決して悪くない』と伝えてあげることが大事」と語った。

グループワークでは、架空の事例をもとに、加害者・被害者双方の気持ちや被害者の友人としてできることなどを考えた。

受講した柏木優希さん（経済4）は「3組に1組でデートDVが起きていると知り、人ごとではないと感じた。もし友人から被害の相談を受けた際は、自分の意見を押し付けるのではなく、寄り添う姿勢を大切にしたい」と話した。

ハラスメントのないキャンパスへ

「ハラスメント」に思う

「ハラスメント(harassment)」を辞書で引くと、「悩ませること」「迷惑」「嫌がらせ」など思いのほか軽い言葉が並びます。単なる「迷惑」であれば、相手にそれを伝えて状況の改善を図るのがお互いにとってメリットになります。

しかし、こんにち問題とされる「ハラスメント」には、そもそも相手に直接「嫌だ」と言えない状況があります。報復が怖いから、大人気ないと思われるから、自分にも非があるかもしれないからと、我慢したり、気にならないふりをしたりする行為を、受け手が一方的かつ自発的に要請されるのです。

多くの場合、加害者は明確な悪意を持っているわけではありません。むしろ無自覚に自分の価値観を押し付けていることがほとんどでしょう。自分にとって是とすることや取るに足らないことが、相手によっては異なることを想像するのは意外と難しいのです。

大学は仲間意識を持てる人間と新たに出会える場であると同時に、異なる価値観を持つ人間と付き合わざるを得ない社会の一部でもあります。ちょっと違うかも、ちょっと嫌かもと思ったら、自分だけで抱え込まず、友人知人、あるいは相談室などに気軽に相談することをお勧めします。気づかずに誰かを傷つけてしまうのは人の常です。早めに相談することで客観的な視点を得られますし、相手にも変化する機会が与えられます。一方的に我慢を強いられることだけでなく、対話なく不信感だけが一人歩きしてしまうことも憂慮しています。

（キャンパス・ハラスメント対策室員　柴田隆子）

キャンパス・ハラスメント対策室　TEL：044-900-7858　E-mail：camhara@acc.senshu-u.ac.jp